史蹟史料部

2025 年 3 月 14 日

#68

日本人墓地公園　ニュースレター

エミリーヒルの旧日本総領事館
The Private Museum ガイドツアー報告

12 月 2 日（月）、20 名の会員様にご参加いただき、エミリーヒルの旧日本総領事館の建物を改装した The Private Museum の日本語ガイドツアーを開催しました。

この建物の歴史については、ニュースレター#47 でご紹介しました。戦前から日本人の歴史に関わる場所で、シンガポールに建物が現存しているのは、ごく僅かで、その貴重な建物のうちの 1 つが、この The Private Museum です。ニュースレターと南十字星に掲載後、たくさんのお問い合わせをいただき、今回のガイドツアーを企画しました。

今回ガイドをお願いしたのは、日本語ミュージアムガイドを長年務めていらっしゃる大澤芳恵さんです。

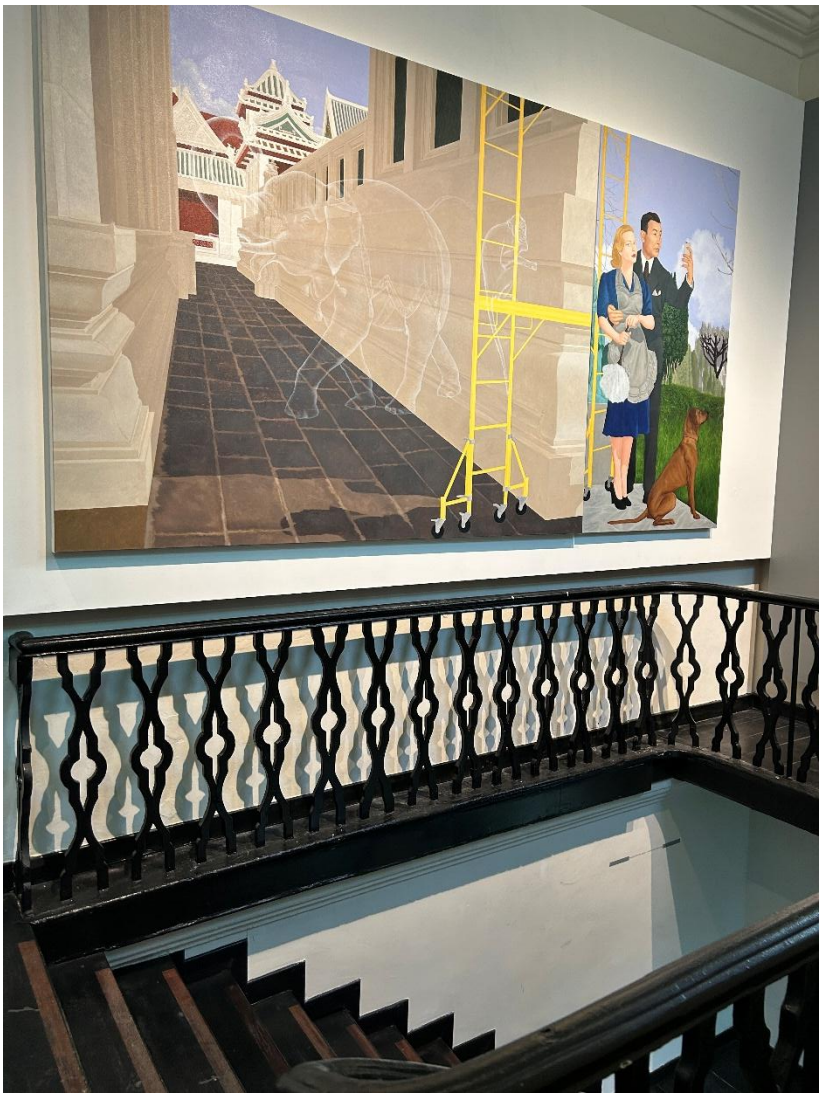
大澤さんは戦前にこの館が日本総領事館となる前、ここに家族と住んでいた歯科医師の娘 吉田美代子さんが2015 年に来星された時に実際にお会いし、お話を聞いて当時の写真をシェアしていただいた経験をお持ちです。現在のミュージアムのダイレクター・レイチェルさんのご友人であり、史蹟史料部にこの館の歴史を教えてくださったことから、ガイドツアー企画が実現しました。

前半はこの建物の歴史をお話しいただきました。以前、ある企業の所有であった時代には、ここには一般の訪問者は立ち入ることができませんでした。現在ここがミュージアムとして一般公開しているからこそ、私たちがほぼ全ての部屋を見学することができるのです。

またこの日は 2 階の一部屋と、そこから屋根裏に上がる階段と屋根裏部屋は修理が必要な状況で、非公開になっていました。130 年以上前に建設された建物に、いつまで入ることができるかはわかりません。今ここに入館できるのは貴重な体験であるのかもしれません。

今回のツアー参加費は、ミュージアム維持への寄付とさせていただきました。

木の階段も建設当時のもので、少し歪みや軋みを感じます。今回のツアーには 40 名を超えるお申込みをいただきましたが、一度にご案内できる人数を考慮し 20 名とさせていただきました。



後半は、12 月 8 日まで展示されていたタイ人アーティスト Natee Utarit さんの作品展「Déjà Vu: When the Sun Rises in the West」の解説をしていただきました。

もしキリストが仏教に出会ったら - 現代の西洋と東洋が入り混じったテーマで描かれ創造された作品の数々は、日本人の会員の皆様にも興味深い展示ではなかったかと思います。

　　最後はティータイムをお楽しみいただき、皆様と歓談しながらツアーやこの建物についての歴史など、さらにお話を深めました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。今回は平日昼の開催でしたが、今後は週末にも開催できればと考えています。

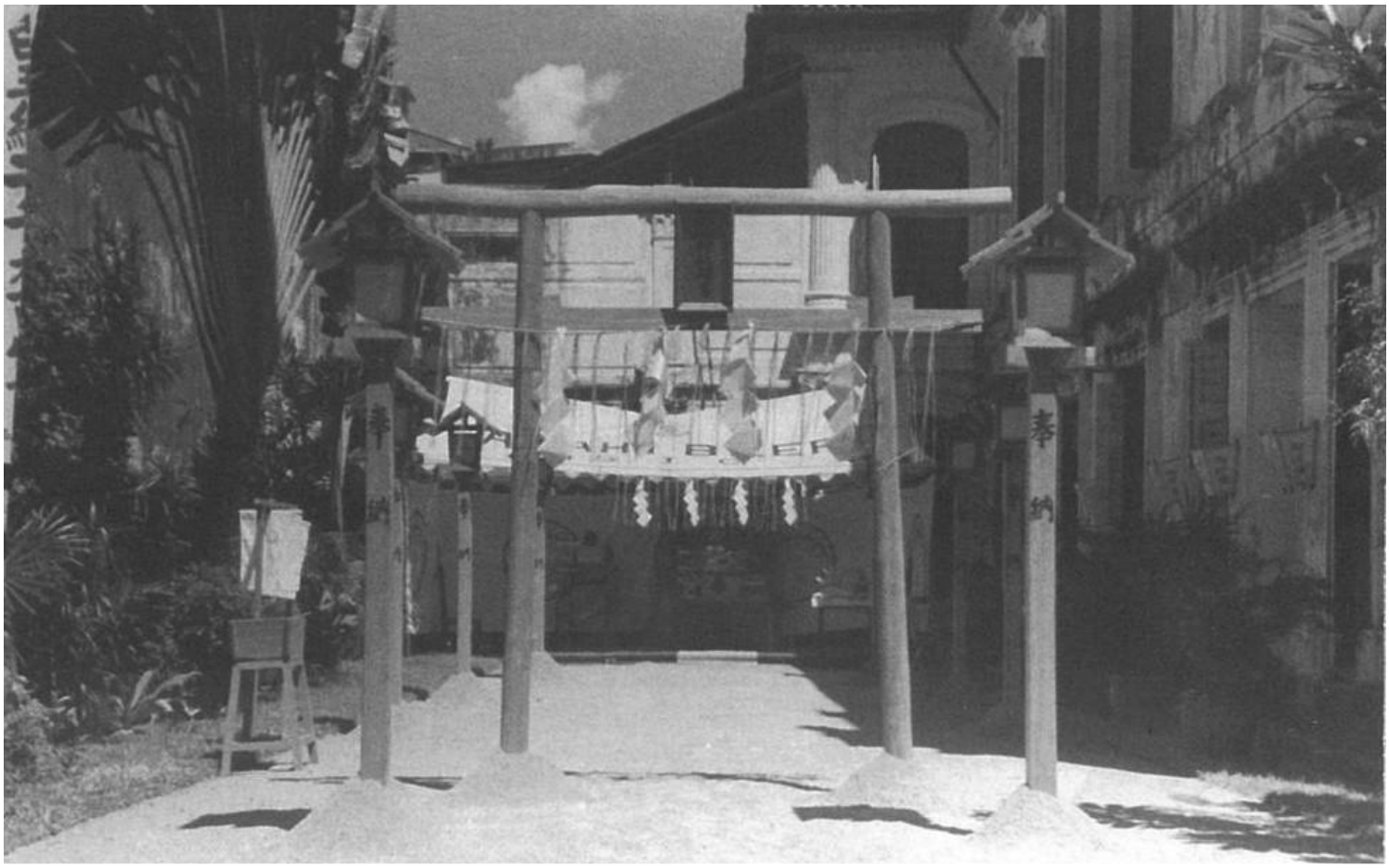
戦前は日本人歯科医の住居、旧日本総領事館として使われたこの建物は、ニュースレター#30 でご紹介した篠崎護が住んでいたという記録も残っています。建物の外観はほぼ変わりませんがここに残る長い歴史を感じました。

そしてこのツアーのための準備をしている際に、大澤さんからご連絡がありました。

「この建物の近くに、日本の神社があったと聞いたのだけど、ご存知ですか？」

現在、この建物の裏側、ウィルキーテラスに建つクリスチャンアッセンブリーが、戦前は日本の神社だったという記録があることを教えていただきました。

初めて伺うお話しに、史蹟史料部は日本人会に残る資料を探したところ、『戦前シンガポールの日本人社会 - 写真と記録 - 』に、この神社の写真を見つけました。



写真の説明には、「**1940（昭和 15）年 4 月 20 日　照南神社大祭**」とあります。

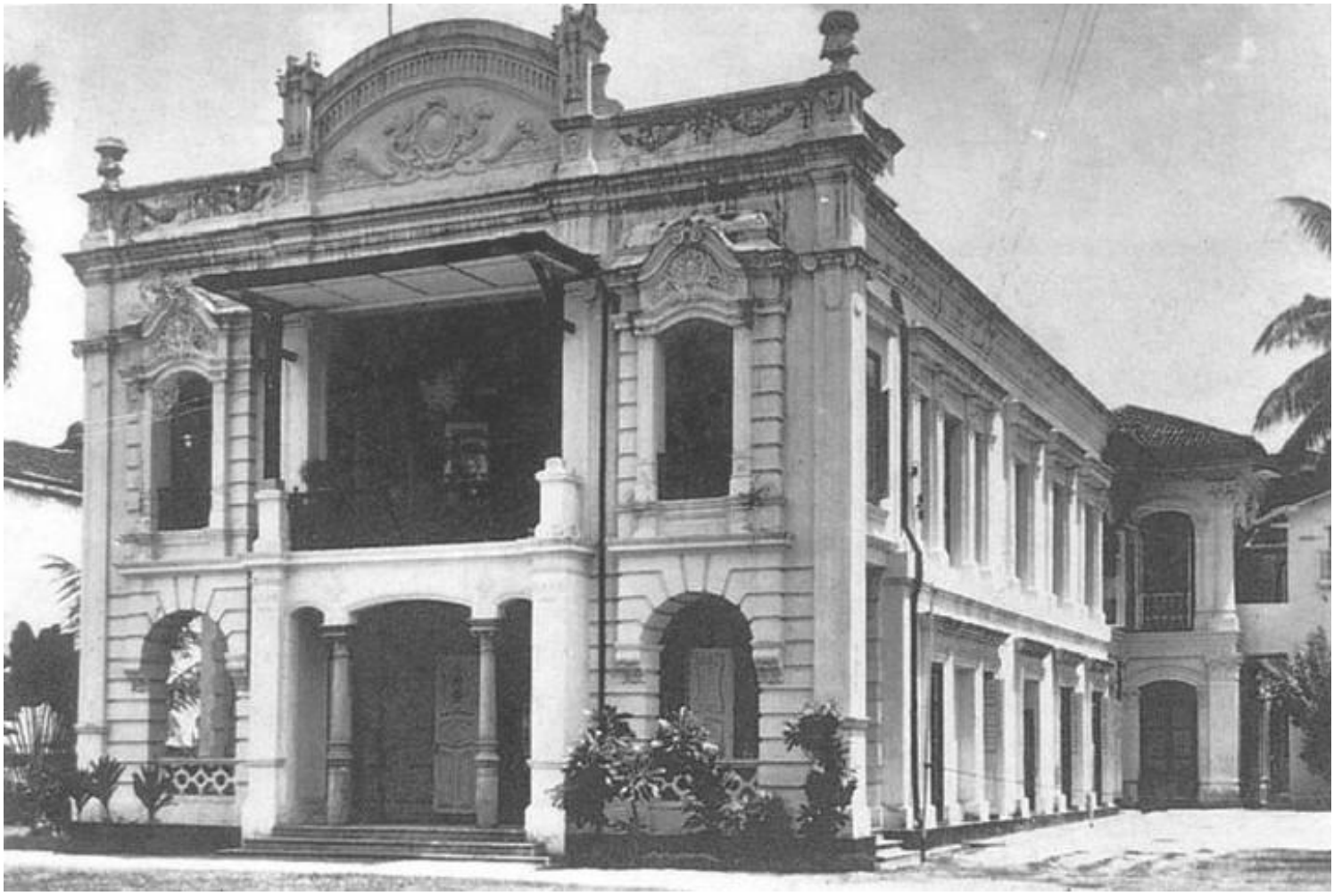
そして、このような説明もあります。「**鳥居の額の文字は「照南神舎稹宮」と読める。場所はセルギー・ロードの日本人倶楽部横。日本人会も同じ建物にあった。**」

この神社の写真は、現在のアッパートムソンロードがある辺りにあったとされる照南神社を紹介するページに掲載されており、この写真だけが、セルギー・ロードと書かれており、史蹟史料部も謎に感じていました。

アッパートムソンロードの照南神社は、1922（大正 11）年 2 月 11 日、当地でゴム園を経営していた太平源四が自己のゴム園内に大神宮を奉祀したもので、永田重彦が名目上の神官として神事を司り、七五三や初詣、結婚式などで多くの邦人が参拝したという説明があります。

しかしこのセルギー・ロードの照南神社には一切の説明がなく、ただこの写真だけが掲載されていますが、日本人倶楽部横という記載で、この写真だけが別の場所の神社ということに気が付きました。

セルギー・ロードの新嘉坡日本人倶楽部は、1926（大正 15）年に建てられた、初代の日本人会の建物です。応接室、レストラン、ラウンジの写真も残っており、当時も大運動会、武道大会、相撲大会、水泳大会、テニス、バドミントン、ピンポン、弓術、麻雀、軟式野球大会、講演会などを主催し、会員間の親睦を図っていたという記録があります。



　戦前の 1940 年、この場所にはセルギー・ロードに日本人倶楽部があり、その横のウィルキーテラスには照南神社があり、日本人が集い、子どもの成長を祝うイベントや季節行事、人生の節目の行事が行われていた。

　そして、この神社から、エミリーヒルの旧日本総領事館 - 現在の The Private Museum の建物までは、かつては歩いて行ける道が繋がっていたのだそうです。（出典 1）

　今まで資料の中で、それぞれを単独で見ていた建物が、隣り合わせの 3 つの道に存在し、そこには文字通り一つの線で繋がる戦前の日本人社会があったということは、史蹟史料部にとっては大きな発見でした。

　ツアーガイドを行う際に様々な角度から調査を行ってくださった大澤さんに御礼申し上げます。

写真左より

史蹟史料部 髙野一樹部長、史蹟史料部 四十万聡司理事
ツアーガイド大澤芳恵さん、史蹟史料部 両頭真衣
日本人会 竹本英男副事務局長

参考文献：
「戦前シンガポールの日本人社会 - 写真と記録 - 改訂版」シンガポール日本人会
1998 年 6 月 27 日発行

出典 1：https://thelongnwindingroad.wordpress.com/2012/11/27/a-last-reminder-of-an-old-fashioned-corner-of-singapore/